

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09000080

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成24年度～平成26年度 ・事業概要 ①預託費の1/4補助 ②哺乳牛施設に要する費用の1/4 ③育成舎等の増改築に係る費用の1/4 (①～③の合計額：限度額1戸当たり100万円) 平成27年度～平成29年度 (①～③の合計額：限度額1戸当たり150万円) ※平成28年度～ ①預託費の1/3補助
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	
単位施策	3 生産技術の向上	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	農業経営改善等対策事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	事業申請者戸数		#N/A	
事業目標	15戸	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町農業経営改善等緊急対策事業補助金交付要綱	
住民協働		関係個別計画名	無	

113	全体計画 事業内容	平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計	本町の酪農家が安定的な営農活動を図るため、雌雄判別精子の交配による優良雌牛を生産し、生乳生産量の拡大を図っているが、増頭となった雌牛が確実に飼育・搾乳されるよう、飼養に要する経費の一部を助成する。 ・3ヶ年の緊急対策事業とし、1戸当たり補助上限を3ヶ年で1,000千円とする。 本町酪農業を取り巻く厳しい状況を鑑み、酪農業経営者に対し、育成牛等の飼養環境の改善を支援することにより、ゆとりある酪農経営や、育成牛等の良好な生育環境の確保を図り、生乳生産量の確保等農業所得向上を進め、本町酪農振興に資することを目的とする。 ・平成27年度から3ヶ年事業を継続し、1戸当たり補助上限を1,500千円とする。	雌牛牛の飼養に要する費用の助成 15戸 × 1,000千円 = 15,000千円	雌牛牛の飼養に要する費用の助成 15戸 × 500千円 = 7,500千円	・預託料助成事業 ・育成牛施設等助成事業 ・哺乳牛施設助成事業	・預託料助成事業 ・育成牛施設等助成事業 ・哺乳牛施設助成事業	・預託料助成事業 ・育成牛施設等助成事業 ・哺乳牛施設助成事業	
計画事業費	事業費(千円)	65,361	15,000	7,500	9,000	19,861	14,000
実績事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	1,160					1,160
事業費(千円)	64,201	15,000	7,500	9,000	18,701	14,000	
関連事項	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	1,160					1,160
事業費(千円)	57,149	6,635	8,439	19,391	22,684	0	
特定財源の名称	指定寄附金 ※よつ葉乳業(株)創立50周年記念寄附金	【評価・実績】	(実施内容等) 雌牛牛の飼養に要する費用の助成	(実施内容等) 雌牛牛の飼養に要する費用の助成	(実施内容等) ・預託料助成事業 29戸 ・育成牛施設等助成事業 28戸 ・哺乳牛施設助成事業 7戸	(実施内容等) ・預託料助成事業 32戸 ・育成牛施設等助成事業 23戸 ・哺乳牛施設助成事業 1戸	(実施内容等)
	前記計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	申請農家戸数 15戸	申請農家戸数 15戸	申請農家戸数 18戸	申請農家戸数 18戸	申請農家戸数 18戸
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	44%	113%	215%	120%	0%
		全体達成率	10%	23%	53%	89%	89%
	備考欄						

事業名	農業経営改善等対策事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	小野 隆行

様式1
平成28年度実施
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	畜産農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業申請農家
【抱える課題やニーズは】	生乳生産量増大のための増頭により、施設(設備)の改修等が必要となるほか、飼養経費の増加が酪農経営を圧迫している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	育成牛の飼養環境の改善	① 事業申請者戸数(実数)	目標年度 目標値 実績値 達成度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	生乳生産量の増大による農業所得の向上		②
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	預託料、施設整備費の助成	対象事業を行った酪農家に対し、費用の一部を補助した。 ※平成27年度から補助対象期間(3年)の1戸当たりの限度額を引き上げた。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	飼養環境の改善及び規模拡大の支援は、酪農経営の安定化を図るため必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	預託料の増加や施設(設備)の改修等による酪農経営者の負担を軽減することで、経営改善が図られた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	平成28年度から、預託料の助成率を1/4から1/3に引き上げたことで、育成牛を預託する農家が増加し、育成牛に関する労働時間の削減により、飼養管理の向上が図られた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	畜産農家全戸を対象とした支援であり、経営の安定化は本町の酪農振興につながることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
積極的な事業の活用により、酪農経営者の負担軽減とともに飼養環境の改善が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
酪農経営の安定化を図るために、飼養環境の改善及び規模拡大の支援を継続する。		

- ※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止